

# 教育実習を振り返って

狭間 美沙

(化学生命工学科 4年)

3週間の教育実習が終わり思うことは、「人生で一番短い3週間」でした。最初は、3週間という長いと思っていましたが教材研究、指導案の作成に追われてあっという間に1日が終わり、そして3週間が過ぎたという印象でした。反省や後悔はたくさんありますが、教育実習ではたくさんのことを学ぶことができました。

授業実習で指導・助言された中で印象に残っている言葉が「今日は何を教えたいのか、何がポイントかを意識しながら授業を行う」ということでした。授業が思ったように進まずあまい授業になってしまった時に、指導教諭から「主眼がボヤけると全てがボヤけてしまう。変に取り繕うと、ますます不自然な流れになってしまう。」との言葉をいただきました。私は本時の目標を考え授業を行っていましたが、目標の設定・考え方が不十分であると感じました。それだけでなく、この授業で生徒に何を覚えてほしいのか、何が重要であるかをはっきり意識せず授業を行っていたと反省しました。

教育実習を通して新たに得たものは、生徒の観察・理解度の定着を見る難しさです。自分が想定したよりも生徒が知識を持っていなかったり、生徒が授業についてこられていなかったりと授業が思うように進まないこともありました。生徒の理解が不十分であると感じたときはもう1回説明を繰り返したり補足説明を加えたりするなどクラスや生徒に合わせた臨機応変な対応が必要であると感じ実行しました。指導案通りに進めるのも大事ですが、それ以上に生徒が今日の授業で学んでほしいことを達成するために生徒に今何が足りないのかを授業をしながら探していく過程も授業中に必要なことであり、そのために生徒の観察や生徒への質問の投げかけ・コミュニケーションが非常に重要であると感じました。

教師は、「白いキャンバスに油絵の具で絵を描くような仕事」と指導教諭の先生に伺ったように自分がその教科の楽しさを教え、その教えたことをもとに学んでいくと思うとやりがいのある仕事であると同時に、学びの入り口になる存在になるかと思うと大変責任のある仕事であると改めて感じました。それだけでなく、生徒指導・学級経営など様々な業務をこなし広く生徒を気にかけて、生徒が安心・安全にすごせるよう様々な面に気を使いながら行動していると感じました。生徒が主体となるよう、どのように振る舞えばよいかを常に考え行動されていると感じました。

今後、生徒との交流・コミュニケーションの仕方について努力すべきだと感じました。明るく大きな声で挨拶、自分から積極的に話しかけ会話をするなど人との関係を築くために何が必要かを考え自分から早く実行できるようにならなければと思いました。また、自分が理想とする教師像・授業像に近づくためこの教育実習で学んだことをもとに努力し続けていきたいと思います。

# 教育実習を終えて

大村 興平

(機械工学科 4 年)

私は、母校の担当教諭の方が入院されたので、大学の附属高校で3週間の実習をさせていただきました。実習校は私の通っている大学の近くにあり、名前も場所も知っていましたが、中へ入るのは初めてでした。

事前に行われた教育実習説明会の際に校長先生や教頭先生からの説明を受けた時は逃げ出したい気持ちになりました。その日から実習前日まで、50分間授業できるのか、生徒と上手くやっていけるか、先生方にご迷惑をかけないかなど、不安と緊張は深まる一方でした。しかし、実習期間に入り生徒と接してみると、個性豊かで、授業にも積極的に参加しており、彼らのためにも授業を精一杯頑張ろうという気持ちになり、3週間の実習もあっという間に感じられました。さらに先生方も親切な方ばかりで、私のために授業前後にわざわざ時間を作ってくださり、熱心な指導をいただきました。

私は1~3年生の技術を担当しました。授業を行う際は、「大きな声ではっきりと話す」と「メリハリをつけ、生徒に興味を持ってもらえるような授業をすること」を目標にしました。どんなに分かりやすい授業でも、声が小さく生徒に聞こえなければ意味がないと考えたので、第一の目標として大きな声ではっきりと話すことを心がけました。しかし授業はホームルーム教室だけでなく、技術教室や情報教室などを使って行うこともありました。教室が違うだけで生徒の授業態度も違い、教室の雰囲気づくりにばかり気を取られてしまい、思い通りに授業を行うことができなかつたこともありました。授業を終えた後は生徒に申し訳ない気持ちでいっぱい、残りの授業を無事に終えることができるだろうかという不安になることもありました。しかし、私を指導してくださった先生や授業参観させていただいた先生方からの様々なアドバイスを参考に、自分なりに工夫をして授業を繰り返していくうちに、自分の構想通りの授業を行えるようになったとともに、授業をする楽しさを感じられるようになりました。先生方のアドバイスの中で特に印象に残っているのは、「教師になった今でも、授業を時間通りに終えることは難しいし、クラスによって多少の差はある」という言葉です。それぞれのクラスに特色があり、同じように進むことができないが、それを難しいことと考えず、それぞれのクラスの個性を大切にしながら授業を進めることが重要だと学びました。また、中間テストや期末テストは全クラス同じように行うので、最終的に全クラス進度が合うように時間配分をされていて、教師という職業は臨機応変に対応しなければならないのだと強く感じました。また、私は生徒との距離を縮めるために、休み時間は授業の準備がない限り生徒とコミュニケーションをとったり、技術の授業がない火曜日と金曜日は他教科の授業参観に行ったりし、他学年他クラスの生徒と一緒に過ごす時間を可能な限り増やし、生徒とのコミュニケーションをとることに努めました。そうしていくうちに、生徒から私に声を掛けてくれる機会も増え、授業中にも授業を盛り上げようとしてくれるなど、生徒にはたく

さん助けられました。彼らがいたからこそ、私は、この3週間を充実した楽しい期間だったと感ずることができました。私がこの実習で学んだ事は、「授業は1人でつくるものではない」ということです。もちろん、他の人に頼ってばかりではいけないのですが、自分の授業が他人から見たらどのように見えるのか、感ずるのかを考えながら授業を構想し、さまざまな工夫を加えていかなければ、自分が何を伝えたいのかが理解されないのではないかと感ずました。そのためにも、他の先生方の意見や授業を受けている生徒の感想到に耳を傾けることを忘れてはいけないと感ずました。また、「教える」という気持ちも大切ではありますが、私自身も生徒から「学ぶ」という意識をもつことでよりよい授業作りができるのではないかと思いました。

この3週間の実習から、生徒のことはもちろんですが、教師という仕事についても勉強になりました。生徒の動きや発言は、予測できず、何か突然起こることもあります。そんな生徒に付き添う先生方は本当に素晴らしいと思いました。先生方は、教えることはもちろんですが、授業の準備やその他の雑務にも追われており、ずっと学校に残って仕事をしている方もたくさんいました。自分が生徒の時にはわからなかった教師の大変さを実感しました。講義では学ぶことができないようなことをたくさん学び、経験することができました。忙しい時期に急遽実習を受け入れてくれた実習校や先生方にはとても感謝しております。実習前の自分より成長することができたと思っています。しかし、人間としてまだまだ未熟な部分は多いです。生徒の模範となれるような人間になれるように日々精進していきたいと思います。

最後になりましたが、担当ホームルームの3年3組の生徒たちには感謝しています。中学生生活最後の文化祭2日間を一緒に過ごすことができました。文化祭準備後の教室に訪れた際、黒板にクラスメイト全員の名前、担任の先生の名前、そして私の名前が書いてありました。クラスの一員として認めてくれていることがとても嬉しかったです。合唱コンクールでは優秀賞とピアノ賞を獲得することができ、クラス全員で喜びを分かち合うことができました。また、最終日にはサプライズで寄せ書きやプレゼントもいただき、私にとって忘れられない宝物となりました。未熟者ではありましたが、熱心に指導してよかったと思えました。ありがとうございました。

# 教育実習を終えて

荻屋田 美穂

(電子情報工学科 4 年)

教育実習は本当に毎日が学ぶことだらけで、あっという間の充実した日々でした。指導教官や生徒達に恵まれており、その環境の中で学ばせて頂いたことに感謝するばかりです。なかでも、実習生の中で研究授業の代表に選ばれ、校長先生やほかの実習生、数学の先生方など大勢に見学されながらの魅せる授業が出来たことも成長に繋がりました。

今回の実習を通しての1番の発見は、導入の大切さです。導入でいかに生徒の心を掴めるのかを3週間を通して常に試行錯誤しました。興味を持って聞いてもらわないことには、どんなに素晴らしい授業をしても意味がありません。常に生徒に問いかけ、独りよがりな授業にならないように意識しました。生徒の興味が向いているのか否かを感じることが出来ることも、現場だからこそ学べたことでした。自信を持って授業をすることで、生徒もついてきてくれたことが更に自信に繋がりました。また生徒の心を掴むために、日頃からの関わりも大切にしました。授業前は生徒と会話をし、放課後も生徒が最後の1人になるまで教室に残り続けて同じ時間を過ごしました。その成果もあったのか、生徒から昼ご飯に誘ってもらい、廊下で会った際も近寄って来てくれるような関係性を築くこともでき、より授業もやりやすくなっていきました。お別れの際に生徒主催で用意してくれていた沢山のプレゼントの全てが宝物です。何より生徒に惜しんでもらえるような存在になれたことが、喜びでした。

もちろん、興味を持ってもらうだけではいけません。授業の軸をしっかりと立てる重要性も教わりました。授業を通して学んだことが1つもなければ、その授業には意味がありません。何を学んで欲しいのか根底をしっかりとさせることで、授業にはまとまりができ、何を生徒に強調したいのかも明確になります。伝えたいことは何度も繰り返し言うことで、生徒にすり込んでいくのです。私が学生の頃も気づかないうちに、すり込まれていたと思うと、巧みな技術に驚かされるばかりです。教師側の視点で見ると、当時受けていた授業も違う角度から様々な発見がありました。人に教えることは難しいことですが、それだけに工夫する面白さやそれに見合ったやりがいがあります。

教壇に立って教える以上、責任ある言動が求められるため、嘘は許されません。言葉一つが生徒の今後の人生を左右する力を持っているのです。今後の課題として、生徒へ向ける言葉の一言一句にもっと配慮をしようと思いました。生徒たちと関わり、教えていく中で、人を育てることが教師の使命なのです。成績を上げるだけならば塾など学校でなくても学べます。教師としての満点はないけれど、正解がない中でより良いものを目指し続ける面白さがこの職業にはあります。今回出会った私の初めての生徒達を忘れず、今後も生徒と共に常に成長していけるような教師になれるよう努力していきたいです。